

# 6 災害に合わせた行動を 考えておきましょう

## 風水害時の対応

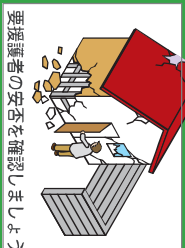


要援護者に情報を伝えましょう



要援護者と避難しましょう

## 地震時の対応



要援護者の安全を確認しましょう



要援護者と一揃に避難しましょう

### ◇もしもに備えた、心がまえも大切です。

- 1 日ごろの備えをしましょう  
地震対策として、家具を固定するなど、日ごろから自分(家族など)のできる災害への備えが大切です。
- 2 「手助け」、「思いやり」の心を持ちましょう  
要援護者は、災害によるショックや不安を一層強く抱えることがあります。まわりの人たちは手助けをするなど、思いやりを持って行動しましょう。
- 3 隣近所との交流を進めましょう  
要援護者自身も、日ごろから隣近所とのコミュニケーションにとつとめ、自分のことをよく知ってもらおうことが大切です。また、まわりの人たちも、一緒に協力しましょう。

### ■災害時要援護者支援に関するご相談は

札幌市保健福祉局 総務部 総務課  
TEL: 011-211-2992 FAX: 011-218-5180 ホムカ→ http://www.city.sapporo.jp/hokentukush/

### ■防災全般について

札幌市危機管理対策室 危機管理対策部 危機管理対策課  
TEL: 011-211-3082 FAX: 011-218-5115 ホムカ→ http://www.city.sapporo.jp/kitikennr/

### ■まちづくりセンターに関すること

札幌市市民まちづくり局 市民自治推進室 市民自治推進課  
TEL: 011-211-2253 FAX: 011-218-5156 ホムカ→ http://www.city.sapporo.jp/sinininj/

### ■消防・救急・救助等に関する講習、訓練に関すること

各消防署予防課 (電話代表 中央: 215-2120 北: 737-2100 東: 781-2100 白石: 861-2100 厚別: 882-2100 豊平: 882-2100 清田: 883-2100 南: 681-2100 西: 667-2100 手稲: 681-2100) ホムカ→ (札幌市消防局) http://www.city.sapporo.jp/sinbo/

■作成：札幌市危機管理対策室 平成20年(2008年)8月

台風や大雨など、気象情報をもとに事前の準備が可能な災害と、地震などの突発的な災害とでは、情報伝達や避難行動など、「もしもの時」に必要な対応が違ってくる。

### ○風水害時の対応

避難準備情報の発令などによって避難することになるので、情報伝達の手段を日ごろから要援護者や支援者の方々と確認しておくことが必要です。

### ○地震時の対応

突然起こる地震では、まず自分の身の安全を守ることが何よりも大切です。その上で、要援護者の安全確認や被災者の救助活動などを行います。

### ○要援護者の人たちへの避難支援訓練をしてみよう

“地域の防災・減災訓練”として災害情報の伝達や、避難場所での生活の支援などが、実際にうまくできるかどうか実践してみよう。訓練には、支援者や、要援護者はもちろん、できるだけ多くの地域の方々にも参加していただくことで、新たな課題や見落としていた問題などが発見でき、いざというときの大きな備えとなります。

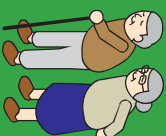
# 災害時支えあい ハンドブック (概要版)

大きな災害が発生した直後など一刻を争うときは、行政による支援が間に合わないことが過去の災害の教訓からも明らかです。このため、隣近所をはじめとした地域の主体的な対応が最も重要です。災害時にまわりの人の手助けが必要な人(災害時要援護者)の避難支援を、隣近所や地域ぐるみで進めていくため、このハンドブック(概要版)を作成しました。

## 1 支援が必要な人がいます

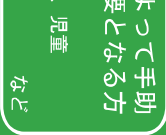
### 高齢者

- ※1人暮らし
- ※高齢者世帯
- ※寝たきりの方
- ※認知症の方など



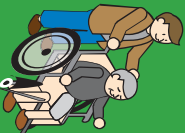
### 状況によって手助けが必要となる方

- ※妊産婦
- ※乳幼児
- ※外国人
- 児童
- など



### 障がいのある方

- ※視覚、聴覚、言語が不自由な方
- ※肢体が不自由な方
- ※内部障がいのある方
- ※精神障がいのある方
- ※知的障がいのある方
- など

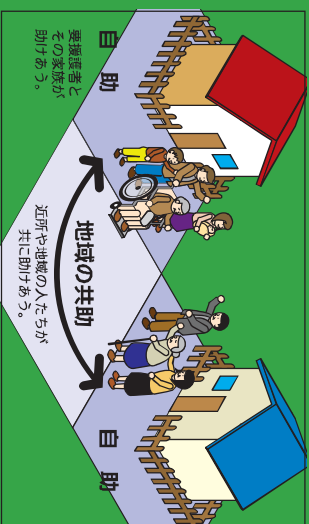


## 2 地域の支えあいが大切です

### ○自助と地域(近隣)の共助

要援護者の避難支援は、自助や地域(近隣)の共助により取組みを進めることが基本になります。

平成7年の阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋などに閉じ込められて自力で脱出できなかった人たちが約35,000人のうち、27,100人(約8割)は家族や近隣の住民により救出され、7,900人(約2割)は警察・消防・自衛隊などにより助け出されています。このことからわかるように、大規模災害時には行政による支援が間に合わないため、地域によるすばやい救助・救護・救援活動はとて大切です。



さっぽろ市  
02-1402-00-05  
20-2-68